

令和5年度 前・後期学校評価

伊予市立佐礼谷小学校 令和6年3月

- 【アンケート結果】 4：大変よい 3：よい 2：やや改善を要する 1：改善を要する
 【評価基準】 A：肯定率90% B：肯定率80%以上 C：肯定率60%以上 D：肯定率60%未満
 【目標値評価】 A：全体肯定率90%以上 B：全体肯定率80%以上 C：全体肯定率60%以上 D：全体肯定率60%未満

項目	小項目 (重点目標)	評価指標及び目標値	前期・後期	目標値評価	学校による考察・改善	評価資料	評価基準	肯定率	アンケート結果(%)			
									4	3	2	1
教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上	複式及び個に応じた指導法の工夫と改善を行い、基礎・基本の確実な定着に努めているか 目標値：教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	肯定率が高かった。教職員間で複式の授業における課題を検討したり、授業改善に向けての研修を行ったりしている。タブレットの活用も含めた複式及び個に応じた指導方法の工夫と改善に取り組み、基礎・基本の定着に努めている。	児童 保護者 教職員① 地域住民	A	100	50	50	0	0
			後期	A	目標値評価・肯定率の変化はないが、評価は若干下がっている。後期は、各学級担任が複式の研究授業を行い、指導改善に努めたが、基礎・基本の定着はまだ十分ではない。今後も授業改善に努め、効果的な実践について情報共有を行いたい。	児童 保護者 教職員① 地域住民	A	100	33	67	0	0
		体験的・問題解決的な学習を充実させ、自ら考え、判断し、主体的に実践する態度を育てているか 目標値：保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	地域の方や外部講師を招いて、様々な体験活動を行なうことができた。児童には、自らが課題を設定し、意欲的に解決していく活動を重視した。引き続き、体験活動を充実させ、主体的な態度を育てていきたい。	児童 保護者① 教職員② 地域住民	A	100	25	75	0	0
			後期	A	目標値・肯定率の変化はないが、教職員の評価は若干下がっている。体験的・問題解決的な学習の機会が多いが、自ら考え、判断し、主体的に実践する態度の育成については、引き続き意識して取り組みたい。	児童 保護者① 教職員② 地域住民	A	100	40	60	0	0
		指導過程、指導法の工夫を図り、豊かに表現する力を育てているか 目標値：保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	児童数が減少し、学習課題について児童同士で話し合わせたり考えを比べたりすることが十分にできていない。多様な考え方を示したり、自分の思いを表現する場を設定したりするなど、今後も指導法の工夫をしていきたい。	児童⑫ 保護者② 教職員③ 地域住民	B	88	50	38	13	0
			後期	A	授業研究を行うことで、一人学びを進めることができた。また、児童朝会や全校話し合い活動等で自分の考えを表現し交流できるような場面を多く設定した。今後も、児童に多様な表現方法が身に付くようにしていきたい。	児童⑫ 保護者② 教職員③ 地域住民	B	88	50.0	37.5	12.5	0.0
	家庭学習の習慣が身に付いているか 目標値：児童、保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	高い評価になっている。保護者との情報交換により、宿題の量を調整したり自主学習を進めたりするなど、個に応じた家庭学習が取り組めるようにしたい。	児童① 保護者③ 教職員④ 地域住民	C	78	67	11	11	11	
					児童① 保護者③ 教職員④ 地域住民	A	100	25	75	0	0	
		後期	A	引き続き高い評価となった。自主学習の質の向上が見られる児童もいる。個に応じて宿題の量を調整したり、学習時間を記録できるようにしたりするなど、学年に合った時間を意識させる取組を工夫したい。	児童① 保護者③ 教職員④ 地域住民	B	88	75.0	12.5	12.5	0	
					児童① 保護者③ 教職員④ 地域住民	A	100	20	80	0	0	
		自他の生命を尊ぶ、優しい心を育てているか 目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	異学年での活動が多く、上級生が下級生に対して声掛けをしながら、助け合ったり協力したりすることができている。道徳科や学級活動の学習を通して、自分の生活を振り返る時間を充実させたい。	児童⑧ 保護者④ 教職員⑤ 地域住民①	B	88	44	44	12	0
			後期	A	当番や掃除、全校お楽しみ会など、みんなのことを思いやった言動が多く見られた。一方、相手の気持ちを考えない言動もある。教職員で情報交換をしながら、繰り返し指導を続けたい。	児童⑧ 保護者④ 教職員⑤ 地域住民①	A	100	62.5	37.5	0	0
道徳教育の充実	前期	A	継続した指導が実践につながり、全体的に高評価である。しかし、児童の自己評価は低めである。児童が課題意識をもてるように、その都度声掛けや指導をしたり、相手を思いやる言動について考えさせたりしていきたい。	児童⑨ 保護者⑤ 保護者⑧言葉 教職員⑥ 教職員⑩言葉 地域住民② 住民③言葉	C	78	45	33	22	0		
				児童⑨ 保護者⑤ 保護者⑧言葉 教職員⑥ 教職員⑩言葉 地域住民② 住民③言葉	A	100	25	75	0	0		
	後期	A	学校保健安全委員会でアンガーマネジメントの講習会を行うなど、気持ちの伝え方や相手を思いやることについて指導を行ってきた。一方、相手の気持ちを考えない言動や言葉遣いについての指摘もある。教職員で情報交換をしながら、繰り返し指導を続けたい。	児童⑨ 保護者⑤ 保護者⑧言葉 教職員⑥ 教職員⑩言葉 地域住民② 住民③言葉	C	75	50	25	25	0		
				児童⑨ 保護者⑤ 保護者⑧言葉 教職員⑥ 教職員⑩言葉 地域住民② 住民③言葉	A	100	40	60	0	0		
	学校は、各学年の発達段階を考えながら、人権・同和教育を適切に行っているか。 目標値：保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	前期	A	全体計画を基に、学年に応じた人権・同和教育を行っている。引き続き、学校の教育活動全体の中で、人権意識をもって指導に努めたい。	児童 保護者⑩ 教職員⑦ 地域住民⑤	A	100	0	100	0	0	
		後期	A	全教職員が、教育活動全体の中で児童を見守り、情報交換をしながら指導に当たった。今後は家庭や地域を巻き込んだ人権・同和教育を行っていきけるよう努めたい。	児童 保護者⑩ 教職員⑦ 地域住民⑤	A	100	20	80	0	0	
読書活動を通して、豊かな感性や創造力を育てているか 目標値：児童、保護者、教職員の80%以上が肯定(3・4)	前期	B	朝読書の時間を設定し、集中して読書に取り組んでいる。幅広いジャンルに親しめるように読み聞かせや本の紹介をしていきたい。	児童 保護者⑥ 教職員⑧ 地域住民	C	78	33	45	22	0		
	後期	B	前期から評価が下がった。学校での読書とともに、家庭での読書習慣が定着化するように、保護者との連携を図っていきたい。また、EILSのみきゅん通帳を活用して、様々なジャンルの本に触れさせたい。	児童⑪ 保護者⑥ 教職員⑧ 地域住民	B	88	37.5	50.0	12.5	0		
学校関係者評価委員の所見		・読書については、ジャンルの幅を広げるなど、質を高めることが必要。 ・学童クラブでは、それぞれの児童が自分で目標や時間を設定して、宿題に取り組んでいる。		学校の対応	「確かな学力の定着と向上」については、少人数(学年1~2名)の複式授業力の向上を図り、個に応じた、少人数の強みを生かした指導で基礎・基本のさらなる定着を目指す。 ・ICTの効果的な活用による個別最適な学びと協働的な学びの充実に努め、児童が社会を生き抜く力を身に付けられるよう指導・支援していきたい。 ・小規模校の良さを生かすとともに、他校との交流などを行い、多様性に触れる活動を行っていく。							

生徒指導	生徒指導の徹底	前期	B	昨年度よりも肯定率が下がっている。決まった人や決まった場面では挨拶ができるが、臨機応変に対応することが難しい。継続して実践することで、全員が自信をもって、元気な挨拶ができるよう指導していきたい。	児童②あい C 67 34 33 33 0 児童③清掃 A 100 56 44 0 0 保護者⑦ D 50 0 50 50 0 教職員⑨ A 100 33 67 0 0 地域住民④ A 100 59 41 0 0
		後期	B	目標値評価・肯定率の変化はないが、教職員の評価は若干下がっている。特に挨拶については、継続した指導が必要となる。低学年の児童に範を示すことができるような、高学年児童の育成にも力を注ぎたい。	児童②あい C 75 37.5 37.5 25.0 0 児童③清掃 A 100 50 50 0 0 保護者⑦ B 80 20 60 20 0 教職員⑨ B 83 17 66 17 0 地域住民④ A 100 43 57 0 0
	前期	A	昨年度よりも肯定率が上がっている。児童同士のトラブルはあるものの、子どもたちが納得する対応をとることや保護者との連絡を密にすることなどを通して、未然防止・早期発見・早期対応につなげるよう努めている。	児童 保護者⑨ A 100 0 100 0 0 教職員⑩ A 100 67 33 0 0 地域住民	
	後期	A	目標値評価・肯定率の変化はないが、保護者の評価は若干上がっている。小さなトラブルも情報共有を密にすることで、早期に対応することができた。トラブルを解決することで人間関係づくりを学び、前向きな成長ができるように支えていきたい。	児童 保護者⑨ A 100 20 80 0 0 教職員⑩ A 100 67 33 0 0 地域住民	
	学校関係者評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶については、やはり声が小さい。もう少し元気な挨拶ができればよい。 全体的には、挨拶はできていると思う。大人が気付いていないこともあるのではないかと。 いじめや不登校問題については、小規模校の利点を生かし、子どもたちをよく見ていただいているので、ありがたい。 地域も元気な挨拶を心掛けたい。 		学校の対応 <ul style="list-style-type: none"> 挨拶については、継続的な指導が必要と考えている。挨拶という行為だけでなく、その意義や効果を伝え、児童自身が課題意識を持って取り組めるような指導を行う。 いじめ、不登校問題については、本校でもいつ起こるか分からないという共通認識のもと、家庭との連携を密にしつつ、早期発見、早期解決できる体制を維持していく。 	
保健管理	健康教育の推進	前期	B	昨年度よりも肯定率が上がっているが、依然として改善が必要だと思われる。特に、教職員と保護者・児童との間に、認識の相違が見られる。生活習慣調べ「ハッピー貯金」を行い、生活習慣を親子で振り返る場を設け、改善に向けての啓発を行っている。	児童④寝起 C 78 45 33 22 0 児童⑤ご飯 A 100 67 33 0 0 保護者⑪ C 75 0 75 25 0 教職員⑫ A 100 33 67 0 0 地域住民
		後期	C	保護者、教職員ともに、早寝早起きについて改善が必要だと感じている。ゲームや動画視聴により就寝時刻が遅く、学校で睡眠不足や体調不良を訴える児童も多い。その都度指導をするとともに、生活習慣調べを継続して実施し、家庭と連携しながら、指導の充実を図っていきたい。	児童④寝起 C 75 37.5 37.5 25 0 児童⑤ご飯 A 100 50 50 0 0 保護者⑪ D 40 20 20 60 0 教職員⑫ A 100 17 83 0 0 地域住民
	前期	B	昨年度よりも目標値評価・肯定率が上がっているが、体力や姿勢について、児童の自己評価が低い。正しい姿勢について、声掛けをしたり、体幹を強化する運動を継続的に取り入れていきたい。	児童⑥体力 C 78 33 45 11 11 児童⑩姿勢 D 56 44 12 44 0 保護者⑫ A 100 25 75 0 0 教職員⑬体力 A 100 67 33 0 0 教職員⑭姿勢 C 67 17 50 33 0 地域住民	
	後期	B	前期同様、児童や教職員の評価が低い。体力づくりについては、業間マラソンの継続や体育科における個々のめあてを設定した取り組みなどを行っている。姿勢については、今後も継続して指導を行いたい。	児童⑥体力 C 75 75 0 25 0 児童⑩姿勢 C 75 12.5 62.5 12.5 12.5 保護者⑫ A 100 20 80 0 0 教職員⑬体力 A 100 50 50 0 0 教職員⑭姿勢 C 67 17 50 33 0 地域住民	
	学校関係者評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> 児童の様子を見ていると、それぞれの成長が感じられ、体力もついてきている。 姿勢が悪いと感じることがあるので、適宜指導をお願いしたい。 		学校の対応 <ul style="list-style-type: none"> 健康・安全に関しては、今後も、的確な判断力・行動力など児童の自己管理能力の向上を目指して指導・支援を継続する。体力、基礎運動能力の向上については、個々のめあてを明確にして取り組ませる。基本的な生活習慣の定着については、引き続き家庭と連携しながら指導に当たる。 	
保護者・地域との連携	地域に根ざした特色ある学校づくり	前期	A	四者ともに肯定率が高く、地域に根ざした学習ができていると考えられる。今後も生活科や総合的な学習の時間等、保護者・地域の協力を得ながら、充実した学習を進めていきたい。	児童⑬ A 100 33 67 0 0 保護者⑬ A 100 50 50 0 0 教職員⑮ A 100 50 50 0 0 地域住民⑥ A 100 82 18 0 0
		後期	A	目標値評価・肯定率の変化はないが、地域住民の評価は若干下がっている。後期は、学校行事が多く、学習内容をまとめる段階であったため、地域に出向いたり、地域の方々に教を請うたりする場面は、前期より少なかった。	児童⑬ A 100 62.5 37.5 0 0 保護者⑬ A 100 60 40 0 0 教職員⑮ A 100 50 50 0 0 地域住民⑥ A 100 61 39 0 0
	前期	A	全体的に肯定率が高い。本校は、地域の関係諸機関と連携を取りながら進めている行事が多い。地域の中にある学校という認識を持ち、今後も情報を共有しながら、よりよい教育ができるよう協力していきたい。	児童 保護者⑭ A 100 50 50 0 0 教職員⑯ A 100 50 50 0 0 地域住民⑦ A 100 68 32 0 0	
	後期	A	後期も全体的に肯定率が高いが、保護者の評価は前期と比べると若干下がっている。児童数減少の現状を考慮しつつ、今後さらに各関係機関と連携を深めながら指導に当たっていききたい。	児童 保護者⑭ A 100 20 80 0 0 教職員⑯ A 100 50 50 0 0 地域住民⑦ A 100 70 30 0 0	
	学校関係者評価委員の所見	<ul style="list-style-type: none"> 連携は十分できていると感じている。 地域としても、学校に頼ってもらうのはうれしい。今後もできる限り協力していきたい。 地域との交流を深めるためにも、講師を招いての体験学習は、引き続き行っていただきたい。 地域としても、引き続き学校行事に参加していきたい。 		学校の対応 <ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動に協力して下さる多くの地域の方々との共通理解と協働実践により、地域に根ざした活動や交流を効果的に展開し、佐礼谷小学校のよき伝統を持続可能な形で継承していきたい。 来年度は、コミュニティスクールの構築に向け、準備を進める。 	

研修	教職員の資質と指導力の向上	計画に沿って研究授業を行い、授業改善に積極的に取り組んでいるか	前期	A	昨年度と比べ、評価は上がっている。今年度は、複式学級における自主的な学びの進め方や、効果的な学習の進め方や、ICTを利用した効果的な学習等について研修を深めている。	児童												
		目標値：教職員の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	後期は、各学級担任が複式の授業実践を行い、授業改善に努めた。また、教職員の情報交換を日常的に行うことで、教材や授業方法を共有する機会も増えた。今後も、日々の実践を振り返り、授業改善に努めたい。	児童												
		教職員のコミュニケーション能力は高まっているか	前期	A	学校・家庭・地域が連携するためにも、重要な内容であり、高い肯定率を得られている。しかし、保護者や地域住民の中に「2：やや改善を要する」と感じてられている方がいる。このことを真摯に受け、今後も保護者・地域とのコミュニケーションを大切にしていきたい。	児童												
		目標値：保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	前期とほぼ変化がない。引き続き、今後も開かれた学校を目指し、教職員同士、保護者と教職員、地域住民と教職員のつながりやコミュニケーションの場を大事にしていきたい。	児童												
学校関係者評価委員の所見	・一人で2学年分の授業を行うのは、大変だと思う。地域とのコミュニケーションも十分とれていると思う。		学校の対応		・小規模校の特性を生かした授業改善を行うために、引き続き、指導力や教職員としての資質の向上に努める。													
安全管理・施設管理	安全安心でうるおいのある学校づくり	安全確保のための見守り活動は充実しているか	前期	A	保護者や地域の方々、児童の登下校の見守り活動に協力してくださったり、危険個所の情報を教えてくださったりしているため、大変助かっている。児童も、安全に気を付け、落ち着いて登下校することができている。	児童(7)	A	100	67	33	0	0						
		目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	保護者や地域の方々の御協力により、後期も、児童は安全に登下校をすることができている。通学の拡張工事も始まると聞いており、情報を集めながら対応したい。	児童(7)	A	100	62.5	37.5	0.0	0.0						
		落ち着きと元気が出る、教室環境、校内掲示、屋外環境の整備が進んでいるか	前期	A	教職員が協力し合って、児童が過ごしやすい教室や校内環境を整えられている。教職員の中に「2：やや改善を要する」と感じている者もいるため、教職員で話し合い、改善していきたい。	児童												
		目標値：児童、保護者、教職員、地域住民の80%以上が肯定(3・4)	後期	A	児童の学習の成果や活動の様子が分かるような校内掲示や環境整備に努めてきた。施設設備の不具合については、市教委にも素早い対応をしていただき、感謝している。	児童												
学校関係者評価委員の所見	・学童クラブ指導者も避難訓練に参加して、非常時の学校との連携に努めている。 ・年2回の奉仕活動、環境整備には、今後も地域と学校が連携して行いたい。 ・登下校の見守り活動について、地域の方々にも協力を依頼していきたい。		学校の対応		・住民自治されだにや交通安全協会、関係諸機関との連携に努め、児童・保護者・地域住民が安心して過ごせる学校環境づくりに努めていく。 ・児童数の減少、家庭数の減少に伴うマンパワー不足が生じているが、教育後援会の組織を活用しながら、可能な範囲で校内外の環境整備を図っていく。													
業務改善	働き方改革と業務の効率化による心身の健康保持	校務分掌は適材適所に配置され、過度な負担となっていないか	前期	B	少ない人数ではあるが、互いに声を掛け合いながら校務に当たっている。	教職員21	B	83	33	50	17	0						
			後期	A	改善傾向にある。引き続き、風通しの良い職場づくりに努めたい。	教職員21	A	100	17	83	0	0						
		能率的に仕事ができるよう職場内の環境を整えようとしていたか。(ICTの活用・地域人材の活用・行事精選など)	前期	A	ICTも活用しつつ、校務のスリム化を図ってきたい。	教職員22	A	100	17	83	0	0						
			後期	A	職員会のペーパーレス化など、改善できるところから取り組んだ。	教職員22	A	100	50	50	0	0						
		残業は、月45時間以内となっているか。	前期	B	昨年度と比べると改善されてきている。年度当初などは超過時間が多い傾向にある。	教職員23	B	83	17	67	0	17						
			後期	B	改善傾向にある。勤務時間のみに捉われず、働き甲斐を考慮した業務改善に努めたい。	教職員23	B	83	50	33	17	0						
		月100時間を越える過度残業が2か月以上続いているか。	前期	A	100時間越えの過度残業はないが、月45時間以内を目標に、効率化を図りたい。	教職員24	A	100	67	33	0	0						
			後期	A	前期に引き続き、過度残業の実態はないが、校務のバランスを考え、効率化を図りたい。	教職員24	A	100	83	17	0	0						
学校関係者評価委員の所見	・教職員の人数も少なく、校務も大変なのではないか。		学校の対応		・校務は多岐に渡るが、互いが補い合いながら取り組んでいく。 ・勤務時間のみに捉われることなく、働き甲斐や使命感を感じることができる職場づくりを目指す。													

ご意見等

(保護者)
○少人数の割には部分的に先生とのコミュニケーションの機会が少ない…と言った意見を子供から聞くことができました。

(地域)
○児童数も教職員数も少ない中、学校行事や校務は他校と同じで大変だと思います。帰れるときは定時で変えるなど工夫して、できるだけ負担を減らしていただきたい。
○休み時間などに、教職員の方々が児童と一緒に遊んでいる姿を見て、とてもありがたく思います。
○学校と地域との間で、きちんと情報共有されていないのではないかと。(校舎配置の変更等)
○黄色い丘の整備にご協力頂きありがとうございます。
○寂しい印象の少人数ですが、地域との合同イベントなど、地域住民の全面協力のもと、児童の個性を大切に育てていると思います。
○行事等で児童の様子を見ると、とてもよい教育が長年に渡り行われていると感じています。ぜひ続けてください。
○児童数が少ないからか、ハングリー精神が弱い子が増えている気がする。
○さらに、他の大きい学校との交流を活発に行ったらどうでしょうか。佐礼谷では難しい行事でも、他の学校と一緒に参加させてもらい、多様な経験ができればよいと思います。
○ふるさとまつりに向けて大変だとは思いますが、体調などに気を付けて、子どもたちへの御指導をよろしく願いいたします。

(学校関係者評価委員)
○行事を通して、子どもたちの成長を感じることができました。先生方がよくしてくださり、ありがたく思っています。
○他校との交流を、積極的に行うとよいと思います。